

## 山間地では焼畑農業

## 主に雑穀食べるオンナメシ

ついで数十年前まで、山間地では焼畑農業が行われてきたし、山麓や平野では周辺の里山や採草地のバイオマスを肥料に活用してきた。若枝や草を水田に施用する「刈敷」は、江戸時代までは水田に対する最も重要な施肥行為だったとされている。

## 桃太郎は焼畑民征伐

「桃太郎」の童話で「おじいさんは山へ柴刈りに」というフレーズがで

てくるが、これはおじいさんの仕事の水田の「刈敷」のための若枝集めであったことを暗示している。また鬼退治の際、おじいさんは持ってきたのはキビ団子であり、桃太郎のお供は犬、猿、キジであることから、いかに山での生活を連想させる。

しかしアワ、キビ、イネが朝鮮半島から日本に伝来したのは縄文時代晩期中葉以降の2860年

から2800年前頃であり、さらに本格的な水稻農業が伝来したのは弥生時代早期(2800年前以降)であった。モモやウメの伝来も同頃であったとされている。このことから、桃太郎伝説の主要登場人物は水稻栽培を始めた弥生時代の人であり、桃太郎が征伐に向かったのは焼畑を続けていた山の人々であったと推測している文献もある(野本寛一「焼

## 肥料に木の灰を使用

畑民俗文化論」雄山閣1984)。

## 「花咲じいさん」の童話で、正直じいさんが性

悪いさんに焼かれた白の灰を枯れ木にふりかけたところ花が咲いたことになっているが、これは当時かまごやいろりで燃やされた木の灰が畑や水田の肥料として使用されていたことを反映している。各地の類話の中には